平成２９年度

石峯便り

学力特集号

平成29年11月３１日
北九州市立石峯中学校
校　長　江口　満

平成29年度　全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語，数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

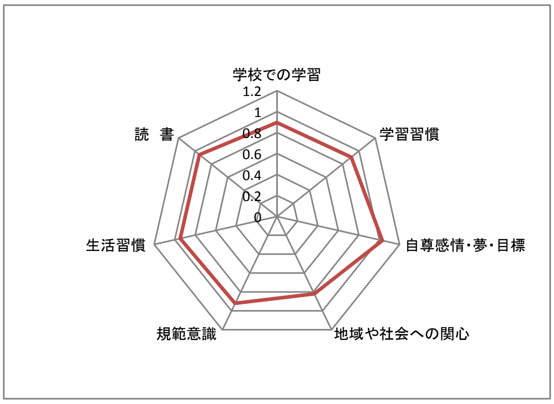
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語A	・全体的に県や全国の平均正答率を大きく下回っているものの、比較したり、文章の構成を工夫する問題はできていた。 ・漢字書き取り問題の無回答率が25パーセント近くもあるなど無回答率が目立つので、日常的に漢字を使用させる指導が必要である。	下回っている
国語B	・全体的に県や全国の平均正答率を大きく下回っているものの、目的に応じて資料を効果的に活用して話す問題は、よくできていた。 ・記述式解答を苦手としている傾向はないが、条件にあった記述の仕方や「比喩」の意味を理解できない生徒が多かった。	下回っている
数学A	・全国平均正答率を下回っているが、「数と式」「関数」「資料の活用」の領域では、全国平均とほぼ同程度であった。図形の領域で「三角形の合同条件」や「仮定と結論」の正答率が低く、無回答率も高かった。 ・全体的に無回答率が高いので、難しい問題にも順序立てて指導をしていく必要がある。	下回っている
数学B	・全国平均正答率を下回っていたが、資料の活用の問題は、全国平均正答率を超えることができた。応用問題に対しての苦手意識が高く、特に説明する問題では無回答率が高かった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・自尊感情・夢・目標の割合が全国的にみても高い。学校行事などを通しての取組が自尊感情を高め、達成感をもたらしている成果だと考えられる。 ・キャリア教育事業「大人としゃべり場」や「職業人に質問」での体験が、生徒の夢や目標に向けてのきっかけになっているのではないかと考えられる。 ・自主的に学習に取り組む生徒とそうでない生徒の二極化傾向にある。日頃から学習習慣が身に付いていない生徒が多いことが課題である。 ・地域の行事などに参加している生徒はよく見かけるが、全体的な割合からすれば、低くなっている。その背景には、スマートフォンの普及により、室内で遊ぶ生徒が増え、外出をあまりしない生徒が増えたことが考えられる。 ・テレビゲームや携帯式のゲームを毎日2時間以上している生徒は半数以上で全国的に見ても高い傾向にある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・全校で朝自習や石峯タイム（放課後学習）の時間を使い、学力定着サポートシステム（北九州市が開発した基礎基本定着問題及び診断問題）を活用し、基礎学力の定着を目指す。
・全学級対抗の漢字・計算・英単語コンクールを行い、クラスの平均点で各学級の順位を競う。学期末に実施し、終業式で表彰を行う。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・全校でステップアップノート（最低１日１ページ）を使った家庭学習の取り組みを行い、家庭学習マイスター（自校独自）の表彰を通して、生徒の意欲向上を図る。
・小中合同で9ヶ年を見通した校区の学習の決まりや生活の決まりを作成し、入学説明会や小中連携通信などを通じて保護者や地域に伝える。